

論文審査の結果の要旨

報 告 番 号	甲 第 1205 号	氏 名	橋 本 瞬
論 文 審 査 担 当 者	主 査 関島 良樹 教授 副 査 野見山 哲生 教授 ・ 田淵 克彦 教授		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>手根管症候群（carpal tunnel syndrome: CTS）は最も頻度の高い絞扼神経障害であるが、一般住民に対して臨床症状と神経伝導速度検査を用いて診断を行い、罹患率を調査した報告は少ない。また東アジアにおける CTS の疫学調査は韓国からの 1 文献のみである。本研究の目的は、住民台帳より無作為に抽出したコホートに対して臨床症状と神経伝導速度検査を用いて診断を行い、CTS の疫学を調査することである。</p> <p>長野県小布施町の住民基本台帳から無作為に抽出した 50 歳から 89 歳の住民 379 人を対象とし、CTS 罹患の有無と既往歴の調査、骨密度・筋力・神経機能の測定、四肢・脊椎の X 線写真撮影、血液検査を行った。本研究では手関節周囲の骨折の既往歴がある者と、質問票にデータ欠損がある者は除外した。CTS に対して手根管開放術を行ったと答えた者は CTS の既往ありとした。正中神経領域の感覚異常があり、正中神経の神経伝導速度検査で遅延を認めた者を CTS 有病者とした。CTS の既往ありと CTS 有病者を合わせて、CTS 罹患者とした。CTS に関連する因子を単変量および多変量ロジスティック回帰分析を使用して検討した。P<0.05 を有意水準とした。</p> <p>その結果以下の成績を得た。</p> <p>1. 女性 14 人、男性 3 人の計 17 人が CTS 罹患者であった。CTS 罹患率は女性 7.4%、男性 1.6%、全体で 4.5%であった。</p> <p>2. 50 歳から 89 歳の日本人の人口構成に合わせて調整した年齢調整罹患率は女性 7.2%、男性 1.8%、全体で 4.7%であった。</p> <p>3. 各年代別の罹患率の違いに明確な傾向は認められなかった。</p> <p>4. 統計学的に CTS 罹患と関連していた因子は女性、高い BMI、関節リウマチ、弾発指であった。女性では短い第 3 中手骨長も CTS 罹患の因子であった。</p> <p>これらの結果より、50 歳から 89 歳の日本人の年齢調整罹患率は 4.7%であること、CTS 関連因子には女性、高い BMI、関節リウマチ、弾発指、女性における短い第 3 中手骨長があることを明らかにした。よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			